

Volume.036



徳山大学校友会誌

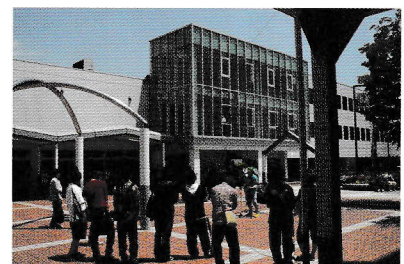
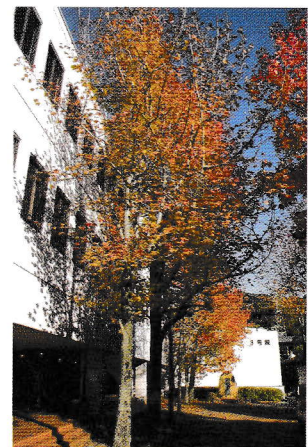
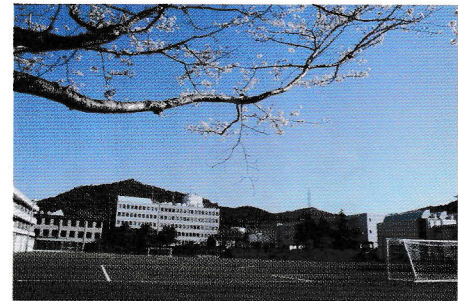
とくだい

発行所
徳山大学校友会

〒745-8566
山口県周南市学園台 徳山大学内
TEL&FAX 0834 (28) 7454

発行日
平成24年3月20日

発行責任者 國廣 憲
編集責任者 瀬川 昌文



徳山大学キャンパスの四季

今年度徳山大学は40周年を迎えました。創立当時は、コンクリートの校舎が点在する以外何もなかったキャンパスは、現在最新の人工芝グラウンドを備え、樹木も育ち、季節ごとの花はキャンパスに彩りを添えています。穏やかな徳山大学キャンパスは今も昔も学生たちに憩いを与えています。

(撮影：中村道陽)

平成二十三年年度 評議員会開催



平成23年度評議員会が6月26日周南市ホテルサンルート徳山で開催されました。まず、國廣会長より、「徳山大学は本年度創立40周年を迎えます。この栄えある年を契機に皆様と共に、母校の発展に力添えをしていきたいと思ひます。また、会員の相互の交流が深まるよう努力を続けて参りましょう」と、挨拶がありました。議事ではまず、22年度の事業及び決算報告、続いて、23年度活動方針・事業計画並びに予算案について審議が行われました。今年度は役員・評議員の改選期であり、新役員・評議員の案が提示され、承認されました。このあと、大学のこれからの教育方針と近況について岡野啓介学長より、ご説明いただきました。引き続き行われた、懇談会では大学から理事長・学長をはじめとして教職員の方をお迎えし、楽しい時間を送ることができました。また、卒業生で歌手・FMきらのパーソナリティを務める永谷青空さんがゲスト参加し、素晴らしい歌声を披露してくれました。会の終わりは、古谷幸男副会長（周南市議会議員）が「皆さんで、母校を盛り上げていきましょう」との力強い言葉で締めくくられました。

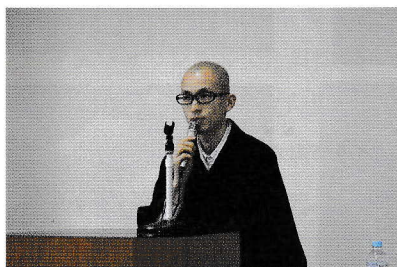
関東支部同窓会 開催される

平成23年11月19日東京都千代田区山王茶寮つきじ植むらにおいて、徳山大学校友会関東支部同窓会が開かれました。支部長の森川茂樹さんより「本日はご来場いただき誠にありがとうございます。私ども関東支部は、母校を遠く離れた関東の地で地道ながらも着実に活動の続け、おかげさまで同窓会も25年目を迎える事ができました。これもひとえに、会員ひとりひとりの愛校心と徳山大学並びに、校友会本部のご支援、ご協力の賜物と存じております。さらなる母校の発展と皆様のますますのご活躍を祈念します」と挨拶がありました。本部から國廣会長、瀬川副幹事長も出席し、和やかに同窓会は進められました。



昨年よりもさらに充実 サタデー・レクチャー好評開講

地域文化向上に貢献する目的で周南市文化振興財団と徳山大学・校友会がタイアップして昨年度から始まった、サタデー・レクチャーが今年も周南市文化会館で開催されまし



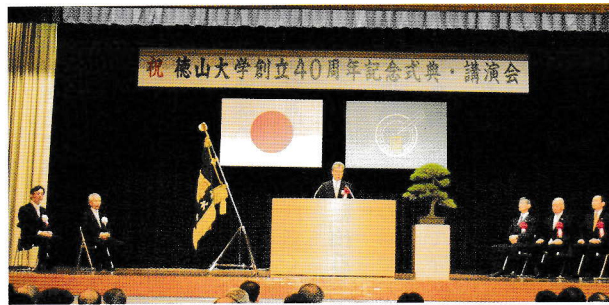
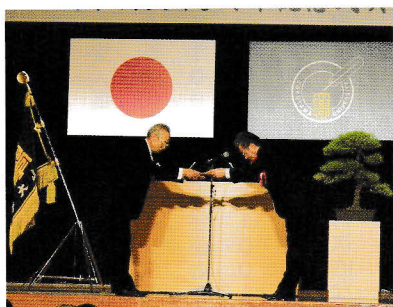
た。1回目は2月18日、時津裕子氏（徳山大学准教授）「心理学に学ぶ、記憶力アップ術」2回目は2月25日、土谷千明氏（株式会社テレビ熊本常務取締役）「なぜ、かくもテレビは面白かったか昭和・平成のテレビ史」3回目は「もう怒らない」、「考えない練習」などの著書でも有名な小池龍之介氏（月読寺・正現寺住職）「貧乏入門／お金の美しい使い方」という講演で、昨年以上に熱心な聴衆で毎回約80名の方が充実した午後のひとときを送ることができました。

徳山大学創立四十周年 記念式典開催される

徳山大学は、本年度創立40周年を迎え、平成23年11月5日に記念式典が徳山大学記念館で、盛大且つ厳粛に執り行われました。式典では、理事長、学長の挨拶に続き、来賓として出席された徳山大学創立者のご子息で衆議院議員元外務大臣の高村正彦氏、山口県県議会議員柳井俊学氏、周南市長木村健一郎氏から祝辞が述べられ、続いて校友会國廣会長から次のように祝辞が述べられました。

「徳山大学創立40周年」、誠におめでとうございます。只今、ご紹介に与りました徳山大学校友会 会長の國廣と申します。

まずはじめに今日まで、わが母校徳山大学を慈しみ、育てていただきました、池高理事長・岡野学長をはじめ、教職員ならびに関係者の皆様方に、深く敬意を表する次第でございます。思い起こせば、昭和46年4月、私たちは1期生として、本学へ入学致しましたが、「全てが一からのスタート」でした。手作りの学生生活であり、初めての「学生会活動」初めての「大学祭」初めての「クラブ活動」など、全てが手探り状態でした。はじめての事ばかりで、苦勞することもありました。それらを通じて、教職員の方々と学生達が、何事においても一体となって、取り組んでいたことが印象深く残っています。特に、いま思い起こすところ思議なのですが、徳山大学の広報活動として、先生方と一緒に、関西地区まで、学生募集活動を行ったことがありま



した。それこそ無名な大学でしたので、募集にはとても苦勞しました。しかし、懐かしい、良き思い出です。

あれから40年、卒業生は1万5000人余りになりました。全ての卒業生にとって、この地、周南は「第2の故郷」「こころのふるさと」と、成っています。卒業生にとっては、自身の拠り所として息づいています。我々校友会と致しましても、大学の発展は「地域社会の発展」に繋がっていると考えております。それ故に、私たち卒業生にできることは「何でも」お手伝いさせて戴きたいと思っています。私たちは、今まで以上に、深い愛情をもって、これから「50周年に向かって邁進していく徳山大学」と共に在りたいと願っております。今後も、徳山大学が、ますます「複雑かつグローバル化していく社会」をリードして行く、「豊かな人材」を、輩出されますよう、心より祈念いたします。

最後になりましたが、関係各位のご健康とご活躍を祈り申し上げ、本日のお祝いの言葉とさせていただきます。本日は、「徳山大学創立40周年」、誠におめでとうございます。

このあと、校友会より40周年の記念品として、演台・花台・司会台一式の目録授与が行われました。式典の締めくくりとして、徳山大学学長顧問中井勝先生指揮による校歌が、徳山大学吹奏楽団、賛助出演の山口県桜ヶ丘高等学校、徳山吹奏楽団、徳山大学吹奏楽団OB、並びに男声合唱団メルソレイネによって演奏され、会場内に高らかに歌声が広がりました。

寄稿

徳山大学の経済効果とこれから

徳山大学 教授 石川英樹



本年度、徳山大学は40周年を迎えました。最近、校友会誌の創刊号から昨年度35号までをお借りし目を通す機会がありました。

創立以来、本学の活動に関わってこられた教職員の方々、さらに卒業生の皆さんが築いてきた歴史の重みがひしひしと伝わってきました。山口県東部唯一の最高学府として40年間地域を支えてきたその実績に圧倒されます。そこで、本稿では本学のこれまでの活動成果について、私なりに振り返ってみます。私の専門は経済学ですが、経済の視点からこれまでの実績を捉えて、徳山大学の存在意義をあらためて示してみたいと思います。

大学が社会で果たす機能を経済的に捉えると、2つの面に大きく分けられます。一つは一事業体として地域社会に経済取引をもたらしている側面、もう一つは高等教育機関として人材育成を通じて社会の発展に寄与するという側面です。

まず、徳山大学が地域社会に経済取引をもたらしている側面について考えてみましょう。大学は教育機関とは言え一つの事業体です。その事業活動に伴う収入・支出があり様々な経済取引が発生し、その取引は地域を経済面で活性化させます。加えて、個人の消費

活動も見逃せません。大学が存在することにより、その地域に学生や教職員さらには様々な関係者が集まります。集まった人たちは様々な消費活動を行う結果、多くの需要が地域に発生します。現在の徳山大学には約1000人の在学生と百人程度の教職員がいますので、単純計算で1100人分の消費が日々地域にもたらされていることになります。さらに、上述の経済取引はそれを支える二次的な経済取引も誘発します。

これらによる地域への経済効果の規模はどの程度でしょうか。統計データを用いて推計しましたところ、年間23億円程度という数値になりました。これは、周南市において事業者が毎年市に支払う税金（法人市民税）の合計を上回る金額です。さらに、周南市の一人当たり市民所得は約300万円ですが、これで割ると約750人分になります。本学は周南市において750人分の年間所得を毎年生み出しているとも言えます。地域経済にとってかなりの規模です。



続いて、大学のもう一つの機能、人材育成を通じた

社会の発展への貢献について考えてみます。大学は多くの学生にとって、社会に出る前の最終段階の学びの場です。大学は教育という形で学生に付加価値を与え、卒業生はその成果を社会で発揮し、社会の発展に寄与します。

徳山大学は創立以来の40

年間で約1万5000人の卒業生を輩出してきました。参考までに現在の周南市における60才未満の大学卒業生数は約1万2000人（平成20年「国勢調査」による）ですが、それを大きく上回っています。現在、卒業生は北は北海道から南は沖縄までほとんど全ての都道府県に在住です。徳山大学で学んだ卒業生のみならず、全国各地で社会を支える原動力として活躍されているのです。

その貢献度を数値で測るとどうなるでしょうか、言い換えると徳山大学による人材育成を通じた価値の大きさはどの程度でしょうか。以下では一つの試算を試みます。

まず、賃金・所得に注目します。統計で一人当たりの生涯所得を見ると、大卒とそれ以外の学歴（高卒など）との間には平均で1億1000万円程度の差があります。かなり大きな数値です。私は高校での模擬授業で大学進学の意味を説明するのに、このデータをよく使います。

さて、少しドライな言い方になりますが経済学流に表現すると、賃金とは就業者の働きに見合った報酬の支払いです。つまり、大卒者が得る1億円超の所得の上乗せ分は、社会への貢献がより大きいことへの報酬だと解釈できます。では、大卒者による貢献がそれだけ大きいのはどうしてでしょうか。それは、大学での教育・学びの成果と考えたいと思います。高校までの学習に加えて、大学では勉学や課外活動などを通じて就業のための力を蓄積します。それが、高卒者等との

差になるのです。卒業後の職場での学びや自分自身の努力による面も当然大きいのですが、大学時代の学びはその後の学びのための気づきや土台として非常に重要です。私自身、振り返ってみると、大学時代の学びはその後の人生にとって決定的に重要なものでした。ということと少し強引ですが、1億1000万円という金額は大学が一人の学生を通じて社会にもたらした価値だと考えましょう。

以上を元に単純計算をすると、「1億1000万円×卒業生数1万5000人＝1兆6500万円」です。徳山大学は創立以来、人材育成を通じて社会に1兆6500万円の価値を生み出してきた。それがここでの結論です。さらに付言すると、卒業生のなかには市議、会社役員、起業家、公務員など様々な要職で活躍の方々も大勢おられます。現実には、上述の机上の推計値では表しきれない規模での社会発展への寄与がもたらされているのではないのでしょうか。

このように、経済の面だけからみても、徳山大学の実績ないし存在意義は大変大きなものです。これを今後さらに発展させていくこと、それがこれから私たちに課せられた課題です。それには、今の社会ニーズに合わせて学生の能力を向上させる。そのために教育を一層高度化していくこと、それ以外にないでしょう。

その新たな歴史作りに向けて、徳山大学はすでに新たな挑戦を始めています。「E・Q（心の知能指数）教育」も一つです。各人がすでに持つ能力を様々な場で活用するための力を専門的見地から育成する教育です。



キャリア教育の充実化にも力を入れています。その一環として、本年度から1年生必修の「教養ゼミⅠ」にキャリア教育の内容を導入しました。教材の一つとして、eラーニング教材も整備しています。また、来期からは「インターシップ」授業を質・量の両面でパワーアップするため、「インターシップ研究」という新たな授業が始まります。さらに、「CASK」と呼ばれる新たなシステムを整備し、学生一人一人のキャリア形成を全学的にきめ細やかに支援する取組も開始しました。これは、①各学生と教職員間のコミュニケーションツール、②キャリア関連の項目を示した学生カルテ、③各学生が学びの成果を蓄積し振り返るための場、という3つの機能を持つシステムです。

最後に、「地域生涯キャリア教育」構想について紹介しておきたいと思います。そもそも「キャリア」とは、一人一人の人間が社会で果たすべき役割を見つけ、それを遂行する力を自ら身につけていくことを意味しています。これは生涯を通して実現されるべきものです。したがって、「キャリア」を支援するキャリア教育は、大学のみで完結するものではないのです。小中高校の段階を含めて大学入学以前でも重要ですし、さらには社会人になってからも必要でしょう。そこで、徳山大学が地域の人々の「キャリア」形成のセンターになる、それが「地域生涯キャリア教育」構想です。そのため

には、地域の小中高校や企業との連携が欠かせません。その第一歩として、高大連携の強化の取組が始まりました。教員が担当制のもとで、教務担当の高校の先生と協議する体制づくりの試みです。まだ一部の高校ではありますが、本学に高校からインターシップ実習生を受け入れたり、高校での教育計画づくりに大学教員が情報提供を行うなどの取組を実現しつつあります。さらに、本学入学前の高校生を対象に、ICTを活用した入学前教育の試行も開始されました。これらは始まったばかりですが、本学を中心とする「地域生涯キャリア教育」の実現が着実に進んでいくことが期待されます。

本学の創設当時、私は県内の近隣地域に住む小学生でした。小中学生の頃の記憶として、「徳山大学は就職に強い」という評判を何度となく聞いたことを今でもはっきりと覚えています。そうした評判どおり、これまで徳山大学は大きな発展を遂げてきました。勝負はこれからです。マクロ的には少子高齢化、低成長時代への移行、地域経済の停滞など、大学を取り巻く環境には逆風が吹いています。しかし、これまでの実績を土台にして新たな挑戦を続ければ「地域に輝く大学」として発展していける、私はそう確信しています。

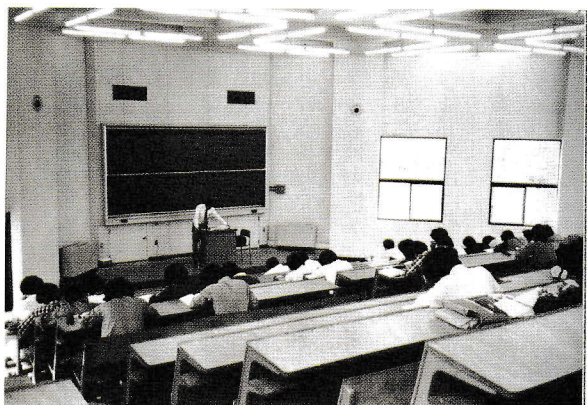
石川 英樹（経済学部教授）

山口県生まれ。専門は経済政策。一橋大学を卒業後、三和銀行、国民経済研究協会、長岡大学に勤務。平成22年4月徳山大学着任。経済学、経済政策などの授業のほかキャリア教育系科目を担当。

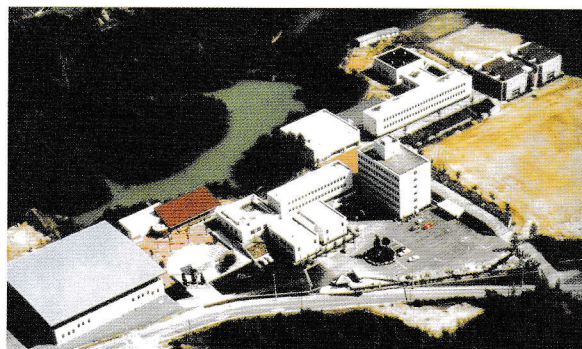
懐かしのキャンパス

昭和58年度卒業アルバムより

昔を懐かしむのもたまにはいいですね。それが明日への力となるなら……



7号館階段教室 大学と言えば、階段教室のイメージが当時は特に強かったですね。



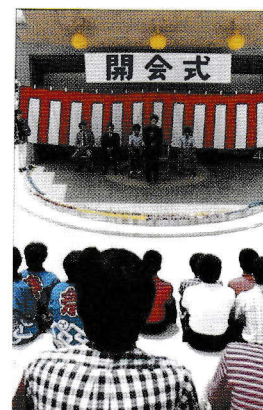
キャンパス全景 10周年を終えたばかりのキャンパス。写真上部の調整池は現在は埋め立てられています。この後まもなく、本館図書館が新增築されます。



夏祭り グラウンドでの盆踊り、手作りで学生生活を豊かにしようとしていた時代でした。



6月祭 新入生歓迎の意味も込めて6月にミニ大学祭が開催されていました。が、こうして踊っているのは、皆さん1年生で、クラブの先輩絶対の時代でした。でも、結構楽しんでいました。



10号館喫茶 現在校友会事務局の藤田さん(右)は、10号館(現知財館教室)の校友会運営の通称100円喫茶に勤務されていました。左の渡辺さんと共にナイスコンビで、学生の良き話し相手でした。当時の大学は集まると言えば学食しかなく、それを何とかしようと考えた校友会が大学側と交渉し、10号館内に憩いの施設として、赤字覚悟でオール100円の喫茶店を提供しました。モーニングもあり、おいしかったですね……よき思い出です。



学食 この当時は食券をおばちゃんが販売、昼食時の行列風景です。なんだか「ぶち」昔みたいです。



維新の道(強歩大会) 山口から萩までの歴史の道萩往還道35キロ1日がかかりで歩いていました。中には下駄やはかま姿もありました。何事も楽しみながら、何かに向かって熱い時代でした。



第66回国民体育大会「おいでませ！山口国体」のレスリング・フリースタイル成年96kg級において、徳山大学総務課（レスリング部コーチ）の磯川孝生さんが、国体4連覇の偉業を達成しました。磯川さんは、開会式において旗手も務めました。「優勝以外は有り得ない」という目標を自らに課し、日夜練習に励み、その目標を成し遂げた磯川さんからは、初めて見せてくれる笑顔がありました。

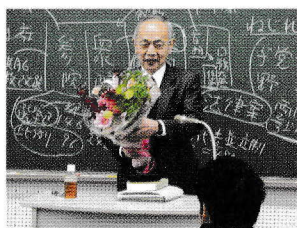
賞状を手にする磯川さん。
背景は会場の周南市新南陽体育館

磯川孝生さん（大学職員） 国体4連覇偉業果たす！

日本高等教育評価機構より
認証評価を受ける

本学は、平成23年3月25日財団法人日本高等教育評価機構から「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている」と評価され、基準を満たす大学として認定されました。なお、詳しい内容について、同機構より一般に公表されております。

とくだいインフオメーション



前田寛先生最終講義実施される

政治学などご担当された前田寛先生が、今年度で定年退職を迎えられ、1月25日最終講義が行われました。先生の今後の、ご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

前田寛先生は山口県立久賀高等学校や下松高等学校などで音楽教育に取り組み全日本吹奏楽コンクール全国大会に10回出場、4度金賞を受賞。県立学校長などを歴任後、平成16年に退職後は、エリザベト音楽大学教授として定年まで指揮法・吹奏楽法等、音楽教育・指導に当たられました。今年度、3回の吹奏楽教室を徳山大学で開催し、高校生や一般の方まで多くの参加者を迎え、懇切な指導をされました。



吹奏楽団総監督に中井勝先生就任

ここらところで繋がっている
オオシマザクラへ寄せる想い

平成14年、当時ラグビー部主将で、文化体育連合会委員長だった大島清高君が、不慮の事故で亡くなりました。大島君は人望が大変厚く、クラブ関係だけでなく、大学の多くの行事に関わり、リーダーとして活躍しており、多くの人が深い悲しみに包まれました。それから1年後文化体育連合会のメンバーを中心に、大島君の功績を讃え、練習場だった総合グラウンド周辺に「オオシマザクラ」を植樹しました。あれから10年の今年2月、10回忌が営まれ、当時のメンバーも駆けつけました。その日から数日後、オオシマザクラ周辺土手の草刈り作業がラグビー部員によって行われましたが、その作業に大島君の同級生の鈴木さんの姿がありました。鈴木さんはフォークソング部で、連合会の役員でした。連合会のつながりがなければ大島君と出会うこともなかったでしょうが、彼の胸の中には、今も脈々と大島君との友情が息づいているようでした。



お便り紹介 一校友会にお寄せいただいたお便りをご紹介しますー

1期 光市在住 桜井 洋治さん いつも楽しませて頂きありがとうございます。

これからも応援しています。永谷君頑張れ！応援するよ。

1期 下松市在住 武居 正脩さん 校友会誌「とくだい」いつも楽しみ、なつかしく読んでいます。卒業生の人々がいろいろな所で活躍されているので、とても励まされます。「東日本大震災」があり、徳大生及び卒業生の人々にも被災された方がおられたでしょうが、徳山魂「知・徳・体」で乗り越えましょう。

14期 広島県在住 角川 光生さん 旧学生食堂の写真を見て青春がよみがえった気持ちになりました。A定食の味はいまだに忘れません。もう一度食べたいです。

7期 周南市在住 熊谷 宏さん 1年1年早いものです。もう40年ですか？いろいろと学部学科が変化し卒業生もいろいろな職業で大活躍していると思います。我々も区切りで同窓会しています。

13期 広島県在住 新谷 宏治さん いつも写真入りで過去・現在の活動状況やお便り紹介等、よくまとめてあり、大変わかりやすい内容になっていて大変すばらしいと思いました。これからは、現在を見据え、過去のよい点を生かし、将来にむけてゆっくり一歩ずつ足元をしっかりと固めて頑張ってください。これからも微力ながらできることは協力させていただきますので、よろしくお願いいたします。

18期 山口市在住 原田 和之さん Vol.35が届いた日、ちょうど息子のサッカーの応援の帰りに徳大横を通りました。徳山に足を運ぶことがとても久しぶりだったし、懐かしさを倍増させてくれた今回の校友会誌。本当にありがとうございます。

11期 埼玉県在住 小林 實さん 年に数回発行の「とくだい」。封書が届いている時、中身を見る前から嬉しく感じています。校友会活動では関東支部の行事にできる限り参加させていただき、未だに学生時代の上下関係を感じつつ楽しんでいます。



<プレゼントコーナー> ～山口県名産品～

①



②



③



① 徳大ポロシャツ・・・2名様 (XLサイズのみ)

大学オリジナルで、肩にワンポイント着心地抜群。

② 白銀3本葉わさび漬セット・・・3名様

防府市杉本利兵衛本店の山口県を代表する蒲鉾です。

③ 朝日屋熟成ベーコン・・・3名様

毎年好評いただきましたので引き続き、下松市の朝日屋の秀逸の品をプレゼントします。

プレゼント希望の方

希望商品、氏名、年齢、住所、電話番号、会誌へのご意見・ご感想をお書き添えの上、

郵送の場合

〒745-8566 山口県周南市学園台 徳山大学校友会

Eメール応募の場合

kouyukai@tokuyama-u.ac.jp

ご送付ください。

※ご意見・ご感想は、誌上・HP上で掲載されることがありますので、予めご了承ください。また、個人情報については、事務連絡のみに使用させていただきます。

編集後記・お礼

大震災から1年が過ぎましたが、まだまだこれからという状況です。校友会会員皆様のご健勝とご多幸を、心からお祈り申し上げます。

編集スタッフ 企画広報部主幹 瀬川昌文 (1期)

三嶋隆史 (3期) 中村道陽 (11期) 野村哲也 (20期)

藤田美恵 (事務局) 協力 徳山大学